

# 第 387 回

## 日本泌尿器科学会新潟地方会

### 《 プ ロ グ ラ ム 》

日時：平成 30 年 9 月 8 日（土）午後 15 時 30 分

会場：パストラル長岡 5F 末広の間

長岡市今朝日 2 丁目 7 番 25 号

TEL:0258-35-1305

#### 次回 第 388 回新潟地方会予告

日時：平成 30 年 12 月 8 日（土）午後 3 時

会場：未定

演題申込期限：平成 30 年 11 月 16 日（金）

- ※ すべての PC のみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7 分、討論 3 分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通 1-757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL : 025 (227) 2289 / FAX : 025 (227) 0784

会長 富田 善彦

15 : 30 ~ 16 : 00

座長 星野 さや香

### 1. G-CSF 産生膀胱癌の 1 例

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科

松本華奈、長谷川素、晝間楓、黒木大生、鳥羽智貴、信下智広、石崎文雄、笠原隆、原昇、冨田善彦

G-CSF 産生膀胱癌は比較的稀な疾患であり、通常の尿路上皮癌に比べて低分化癌、未分化癌が多く予後不良と報告されている。今回 G-CSF 産生膀胱癌と診断した 1 例を経験したので文献的考察を踏まえて報告する。

65 歳男性。肉眼的血尿のため近医泌尿器科を受診し、膀胱内に巨大腫瘍と左水腎症を認めたため、当科紹介受診した。白血球の著明な増多、血中 G-CSF の著明な上昇を認め、G-CSF 産生膀胱癌と診断し GC 療法を開始したが、診断からおおよそ 4 ヶ月後に死亡した。

### 2. 急性陰囊症の手術症例検討

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科

池田多朗、田崎正行、山名一寿、丸山亮、星井達彦、笠原隆、原昇、小原健司、齋藤和英、冨田善彦

急性陰囊症に対し精巣捻転を否定できず手術に至る症例は少なくない。しかし、精巣捻転ではなかった症例が散見される。今回我々は、急性陰囊症において手術となった症例の患者背景とその原因について後方視的に解析を行った。文献的考察を含めて発表する。

### 3. 後腹膜に発生した単中心性 Castleman 病の 1 例

新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、病理診断科<sup>2)</sup>、放射線診断科<sup>3)</sup>

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科<sup>4)</sup>

村田雅樹<sup>1)</sup>、長谷川剛<sup>2)</sup>、池田洋平<sup>3)</sup>、中川由紀<sup>1)</sup>、西山勉<sup>1)</sup>、冨田善彦<sup>4)</sup>

71 歳女性が肝癌疑いでの精査中に、後腹膜腫瘍を指摘され、当科を紹介受診した。CT、MRI では腹部大動脈と下大静脈の間、十二指腸水平部に接する径 25mm の早期濃染腫瘍を認めた。MIBG シンチでは後腹膜腫瘍に集積を認めず、パラガングリオーマは否定的であった。2018 年 5 月に腹腔鏡下腫瘍摘出術を行った。病理診断は Hyaline vascular 型の Castleman 病であった。全身検索で他の病変は認めなかった。後腹膜単中心性 Castleman 病と診断し、経過観察中である。

16 : 00 ~ 16 : 40

座長 田崎 正行

### 4. 陰嚢部尿道下裂に対する Thiersch-Duplay 二期的手術法の成績

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科

中山亮、小原健司、星井達彦、丸山亮、風間明、星野さや香、山名一寿、安楽力、黒木大生、冨田善彦

2009 年以降に当科にて二期的手術法を用いて尿道形成を行った 12 例を対象とした。対象の出生時体重は 634 g ~ 3043 g で 1000 g 未満の症例が 3 例であった。一期目の手術時月例は、20 ~ 141 か月（中央値 33 か月）であった。（手術法）一期目手術として、索切除の後に byars flap を作成し背側包皮を腹側に移動させる。このとき、glanular wing を作成した後に背側包皮を両側から回して腹側正中で縫合する。ハイドロサイトプラスを用いて tie-over dressing とする。二期目手術として、腹側に移動させた包皮を用いて Thiersch-Duplay 法で尿道形成を行う。（成績）1 例に尿道皮膚瘻を認めた。外尿道口は陰茎先端で縦のスリット状に形成することができた。

#### 4. 腫瘍破裂を来した腎盂・尿管重複癌の1例

長岡中央総合病院 泌尿器科  
晝間楓、信下智広、高橋英祐、照沼正博

症例は57歳女性。2018年6月29日の人間ドックで左腎腫瘍と同側の水腎症を指摘。7月7日に左側腹部～下腹部痛あり、近医へ緊急入院。CTにて左腎腫瘍破裂および左尿管腫瘍を指摘。当科へ転院し緊急腎尿管全摘除術を施行、腎盂・尿管の重複癌と病理診断された。腎盂・尿管の重複癌は文献上あまり報告がなく、また、腎盂尿管腫瘍が自然破裂する報告も類を見ない。今回我々は貴重な症例を経験したため、若干の文献的考察を踏まえて報告する。

#### 5. 当院において精索捻転疑いで手術を行った症例の検討

長岡赤十字病院 泌尿器科  
山崎裕幸、鈴木一也、米山健志

2008年4月から2018年3月までに精索捻転を疑い35例に手術を行った。年齢の中央値は11歳(3-36歳、成人7例)。発症側は右14例、左21例であった。内訳は精索捻転19例、精巣付属器捻転11例、精巣上体炎3例、原因不明が2例であった。精索捻転の19例のうち、12例で精巣を温存できた(温存率63%)。発症から捻転解除までの時間の中央値は8時間(2.5-88時間)であり4例で整復後待機的に手術を行った。当院での手術症例につき検討を行う。

#### 6. 巨視的化骨を伴う脱分化型精索脂肪肉腫の一例

新潟県立中央病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、病理診断科<sup>3)</sup>、整形外科<sup>4)</sup>  
新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科<sup>2)</sup>  
安藤嵩<sup>1)</sup>、渡邊和博<sup>1)</sup>、中山亮<sup>2)</sup>、水澤隆樹<sup>1)</sup>、酒井剛<sup>3)</sup>、大塚寛<sup>4)</sup>、片桐明善<sup>1)</sup>

62歳男性。固く痛みを伴う左鼠径部腫瘍とその増大を主訴に当科受診した。石灰化を伴う精索腫瘍の診断で高位精巣摘除術を施行され、病理検査で精索由来の化骨を伴う脱分化型脂肪肉腫と診断された。切除断端陽性であったため、整形外科で拡大切除と術後放射線治療が行われた。切除組織中に残存腫瘍は認めなかった。治療後6ヶ月時点で再発はない。巨視的化骨を伴った脱分化型脂肪肉腫が精索に生じた症例の報告は過去に無く、若干の文献的考察を含めて報告する。

[ 休 憩 16:40~17:00 ]

17:00より、同会場にてサテライトセミナーを行います。

第387回 日本泌尿器科学会新潟地方会  
サテライトセミナー

日時：平成30年9月8日（土） 17:00 ～ 18:00

会場：パストラル長岡 5F「末広の間」

長岡市今朝日2丁目7番25号 tel: 0258-35-1305

座長 新潟大学大学院医歯学総合研究科

腎泌尿器科病態学・分子腫瘍学分野 教授 富田 善彦 先生

【特別講演】

『前立腺癌、膀胱癌における膜解剖に基づいた

骨盤内リンパ節郭清／ホルモン療法の果たすべき役割』

東京慈恵会医科大学付属柏病院 泌尿器科

診療部長・准教授 三木淳 先生

講演会終了後に意見交換会をご用意しております。

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

武田薬品工業株式会社